

地域を創造するトータルコア企業



わたしたちは、地域における「産業」「生活」「環境」「文化」をはじめとする様々な分野の成長に情熱を傾け、新しい価値の誕生を支援してきました。
これからも、地域の豊かな未来を目指し、皆さまの身近でお役に立てる、総合力をもった「地域を創造するトータルコア企業」として、歩み続けていきます。

企業理念の3つの柱

活動領域

地域と調和し、豊かな未来を築くために、全力をつくします。
地域に密着した金融機関として、皆さまとの対話を大切にしながら、豊かで活力ある未来をともに考え、その実現に全力をつくします。

将来ポジション

地域との連帯を強め、ベストパートナーを目指します。
皆さまとより強い連帯感を育みながら、温もりを感じあえる地域コミュニティの充実に取り組み、地域のベストパートナーとなることを目指します。

イメージ目標

地域の信頼に応えることのできるリーダーを目指します。
よりよい地域づくりを通して皆さまとの信頼関係を深め、地域にとって頼りになる“リーダー的存在”として認識していただくことを目指します。

わたしたちの誓い

- ①わたしたちは、チャレンジ精神を忘れずに、常に目標に向かって躍進します。
- ②わたしたちは、対話を大切に、地域の声を聞き、情報の有効活用に取り組みます。
- ③わたしたちは、自分の仕事に誇りと責任を持ち、企業の戦略に参画します。

いいしんは、

飯塚市が進める「子ども体験型キャリア教育事業」に協賛しています。

当金庫では、2023年8月に本格始動した飯塚市教育委員会主催の産学官連携事業「子どもたちの夢・未来を育む子ども体験型キャリア教育事業」に協賛しています。

飯塚市役所穂波庁舎3階を改装し、「スチューデント・シティ」および「ファイナンス・パーク」(公益社団法人ジュニア・アチューブメント日本が提供する体験型学習プログラム)施設を設置。企業や地域と連携しながら、飯塚市内の小中学校すべての子供たちが無償で体験学習できる場となります。

全国ではこれまでに宮城県仙台市、福島県いわき市、東京都品川区の3カ所に設置されており、今回、西日本で初めて飯塚市に設置されました。

「スチューデント・シティ」(経済体験学習)では、当金庫のほか、市役所、通信会社、総合スーパー、ドラッグストア、コンビニエンスストアなどが出店し、本物に近い店舗や事業所を再現。子供たちが働く人や市民(消費者)の立場になって人と人との対応や一人ひとりに渡された二次元コード付きのカードで、自分の口座に振り込まれた給料の受取りや納税、商品の買い物などを体験し、社会や経済の仕組みを理解することを目指しています(小学5年生対象)。

「ファイナンス・パーク」(生活設計体験学習)では商品情報やサービス情報をもとに、あらかじめ設定された収入や家族構成に応じて、その生活に必要なお金について学ぶとともに、生活設計などを行っています。(中学1年生対象)

当金庫では、子どもたちが前向きに自身や社会の未来を創造していく力をつける育成への支援を続けてまいります。



中小企業の 経営支援に関する取り組み



経営改善支援への取り組み状況

当金庫の経営改善支援は2004年度より実施しており、2012年11月には審査部内に企業支援グループを設置し、企業への訪問活動を通じて経営改善支援の強化を図っています。

2023年度は22先を経営改善支援先と定め、本部担当者と営業店と連携して企業訪問を実施し、課題解決のための支援を行ってまいりました。その中で依然として新型コロナウイルス感染症の影響が残り、業況の回復が遅れている企業に対しては、福岡県中小企業活性化協議会やふくおかサポート会議などの外部専門機関の支援も仰ぎ経営改善計画書の策定を行う等、経営改善のための支援を行いました。

経営改善支援等の取組み実績【2023年4月～2024年3月】

	A	初期債務者数				α/A	β/α	δ/α
		うち経営改善支援取組み先数						
		αのうち期末に債務者区分がランクアップした先数	αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数	αのうち再生計画を策定している全ての先数	δ			
正常先	①	1,958	0	0	0	0.0%	0.0%	
要注意先	うちその他要注意先	②	413	14	12	12	3.4%	7.1%
	うち要管理先	③	0	0	0	0	0.0%	0.0%
破綻懸念先	④	74	8	8	6	10.8%	0.0%	
実質破綻先	⑤	55	0	0	0	0.0%	0.0%	
破綻先	⑥	19	0	0	0	0.0%	0.0%	
	小計(②～⑥の計)	⑦	561	22	20	18	3.9%	4.5%
	合計(①+⑦)		2,519	22	1	20	0.9%	4.5%

(注)

- 初期債務者数及び債務者区分は2023年4月当初時点で整理
- 債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含めない。
- βには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載。なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαに含めるものβに含めない。
- 初期の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はβに含める。
- 期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が初期の債務者区分と異なっていたとしても)初期の債務者区分に従って整理した。
- 期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めない。
- γには、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載。
- みなし正常先については正常先の債務者数に計上した。
- 「再生計画を策定した先数δ」=「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」+「RCCの支援決定先」+「金融機関独自の再生計画策定先」

経営者保証に関する取組方針及び「経営者保証に関するガイドライン」への取組状況

当金庫では、「経営者保証に関するガイドライン」及び「事業承継時に焦点を当てた『経営者保証に関するガイドライン』の特則」の趣旨や内容を十分に踏まえ、お客さまからお借入れや保証債務整理の相談を受けた際に真摯に対応するため、「経営者保証に関する取組方針」を以下のとおり策定しています。同取組方針に基づき、経営者保証の必要性については、お客さまとの丁寧な対話により、法人と経営者の関係性や財務状況等の状況を把握し、同ガイドライン等の記載内容を踏まえて十分に検討するなど、適切な対応に努めています。

(1) 経営者保証に関する取組方針

当金庫では、「経営者保証に関するガイドライン」(以下、「ガイドライン」という。)の趣旨や内容を踏まえ、同ガイドラインを融資慣行として浸透・定着していくために、以下のとおり取り組みます。

- * お客さまが融資等資金調達のお申込みをした場合、当金庫では、お客さまのガイドラインの要件の充足や経営状況等を総合的に判断する中で、経営者保証を求めない可能性や経営者保証の機能を代替する融資手法(一定の金利の上乗せ等)を活用する可能性について、お客さまの意向を踏まえううえで検討いたします。
- * 上記の検討を行った結果、経営者保証を求めることがやむを得ないと判断し、経営者保証を提供いただく場合、当金庫はお客さまの理解と納得を得ることを目的に、保証契約の必要性等に関する丁寧かつ具体的な説明を行います。
- * 経営者保証を提供いただく場合、お客さまの資産及び収入の状況、融資額、信用状況、情報開示の姿勢等を総合的に勘案して、適切な保証金額の設定に努めます。
- * お客さまから既存の保証の変更・解除等の申入れがあった場合は、ガイドラインに即して改めて経営者保証の必要性や適切な保証金額等について真摯かつ柔軟に検討を行うとともに、その検討結果について丁寧かつ具体的な説明を行います。
- * 事業承継時には、原則として前経営者、後継者の双方から二重で経営者保証は求めないこととし、例外的に二重に保証を求めることが必要な場合には、丁寧かつ具体的な説明を行います。また、後継者に当然に保証を引き継いでいただくのではなく、その必要性を改めて検討いたします。
- * お客さまからガイドラインに基づく保証債務整理の申し出を受けた場合には、ガイドラインに即して誠実に対応いたします。

(2) 「経営者保証に関するガイドライン」への取組状況

項目	2023年度
新規に無保証で融資した件数	229件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	19.43%
保証契約を解除した件数	12件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数(当金庫をメイン金融機関として実施したものに限る)	0件